



著作権とは何でしょう？ 著作権は誰のもの？

? テレビ番組のプロデューサーから、私が作った音楽のすべての権利をもらえないかと話をもちかけられました。どうすればよいでしょうか。

Q 権利をわたすよう求められたのですね。あなたの音楽の著作権はあなたのものです。著作権は自分の作品を使う権利です。これには演奏する権利、オンラインで提供する権利等が含まれます。あなたの曲はオリジナルな作品だから、著作権を保護されているのです。

? なるほど。自分の作品の著作権は、常に自分が持っているのですか？

Q 必ずしもそうではありません。あなたが従業員もしくはフリーランスの場合、住んでいる国や地域の法律によっては、あなた、雇用主または給与支払者（「委嘱者」と呼ばれる）が著作権者になる場合があります。もちろん、交渉して条件を正式な契約書で定めておくことによって、作品の著作権を誰が持つか、あなたや雇用主・委嘱者が決められることもあります。

著作権のバイアウトとは何でしょう？

? そのプロデューサーに、自分の曲の権利は渡せないと伝えたところ、曲の著作権を買い取りたいという説明とともに、金額を提示されました。

Q なるほど、一回きりの支払いと引き換えに自分の著作権をプロデューサー側に移転させたいか、聞いてきたという訳ですね。これは「著作権のバイアウト」と呼ばれています。バイアウトが完了すれば自分の作品の著作権を持つことも管理することもなくなり、自分の作品でお金（使用料）を稼ぐこともできなくなります。

? 待ってください、自分の作品から収入が得られなくなるということですか？契約の内容について、責任者とよく話し合ったほうが良さそうですね。

Q 自分が求めているもの、そして自分がもらうにふさわしいものがきちんと得られるよう、確実にその人と話すべきです。このチェックリストを読んでみてください。著作権のバイアウト契約で気を付けなくてはならない項目が書いてあります。

著作権のバイアウト： チェックリスト

あなたが従業員もしくはフリーランスの場合：

- ◆ -雇用契約書やフリーランス契約書で、自分の作品の著作権を誰が持っているか確認する。
- ◆ 従業員の作品（職務著作）やフリーランスの作品（いわゆる「委嘱作品」）に関する自分の国や地域の法律を確認してみる。

クリエイターとしての自分が放棄できない権利があるか、法律を確認する。

例：韓国

著作者は一般的に自分の作品の人格権（公表権、帰属権、同一性保持権を含む）を持つ。著作者の人格権は著作者に排他的に帰属する。

契約から公平な支払いを受けられるか、契約書を確認する。

自分の著作権が移転された場合に取戻すことはできるか、できる場合はいつか、契約書または自国法を確認してみる。

例：インドネシア

作品の著作権がバイアウト契約の形で譲渡・移転された場合、および／または無期限で移転している場合、法律に基づき、著作権の所有権は25年後に自動的に元の作家に戻る。

契約書の条件をよく確認すること(独立した立場の法的なアドバイスをもらうことを検討する)

- ◆ もし何らかの不公平な条件がある場合、契約の他方の当事者に対して、契約書の変更を提案する。

最終的に、契約書にサインするかを決めるのはあなたの自由です!

- ◆ あなたの意志に反して契約書にサインさせられた、もしくは誤って契約書にサインしてしまったことに後で気付いた場合、法的なアドバイスを求める。



ビヨルン・ウルヴァース
CISAC会長

「コロナ禍後の世界では、著作権のバイアウトの問題はクリエイターにとってかつてないほど重要です。アーティスト、作曲家や作詞家は自分の権利を自覚し、選択肢を理解した上で支払いを受ける方法について確かな情報に基づく選択をしなくてはなりません。自分の将来の生活はそれに懸かっているのです。」



ミョンソン・ユン
アジア・太平洋音楽著作権者連盟
(APMA) 委員長

「私たち音楽創作者は著作権のバイアウトとその帰結について理解し、十分に備えておかななくてはなりません。APMAは、アジア太平洋地域だけでなく世界中の音楽創作者が自分自身の自律的判断によって、音楽作品の利用から公正な報酬を受け取ることができる環境づくりに努力して行きます。」

www.apmusicalliance.org

www.ciamcreators.org

www.cisac.org

international.yourmusicyourfuture.com



著作権のバイアウトについて 知っていますか?

© クリエーターのためのサバイバル・ガイド